

# 食物栄養学科学生の「学生満足度調査」結果について

長光博史<sup>1)</sup> 森脇千夏<sup>2)</sup> 阿部志磨子<sup>3)</sup>

## A Satisfaction Survey on Students of the Nakamura Gakuen Junior College Nutrition Division

Hiroshi Nagamitsu<sup>1)</sup> Chinatsu Moriwaki<sup>2)</sup> Shimako Abe<sup>3)</sup>

(2016年11月25日受理)

### はじめに

大学全入化時代を迎え、入学形態、出身背景など入学者の多様化が進んでいるが、それらを許容しつつ教育の質を保証する教育システムの確立、いわゆる大学教育改革が全国的に求められている。

この改革の狙いとして、教育から学習へのパラダイムシフトがあげられる。その背景として、従来の知識獲得偏重の学習成果よりも、課題の認識・その解決に向けた知識の活用・論理的思考力・表現力などの社会人基礎力養成が、就職先を含む社会全体から求められる時代となったことが挙げられる。しかし、こうした能力は、従来の科目試験、卒業論文、レポートといった直接評価法では測り難いため、これらの能力、即ちラーニング・アウトカム（学習成果）の評価方法として、ルーブリックなどの到達度判定による学修プロセス評価・学生満足度調査・卒業生調査といった間接評価法が試みられている。これらの評価方法では、“何を覚えたか”ではなく、“何ができるようになったのか”という学生側の主観的判断に頼るもので、客観的な指標としては言い難いが、教育改善の方向性を検討する上での判断材料としては利用できる。どのような授業をすればどのような学生が能動的に学ぶようになり、学修成果が上がるのか、学修に対する満足度を上げられるのか、などを明らかにできる利点がある。これらの間接評価法は米国で先行しており、インディアナ大学中等後教育研究所による NSSE (National Survey of Student Engagement) や UCLA 高等教育研究所による CIRP (The Cooperative Institutional Research

Program) がよく知られている。これらをモデルにわが国では JCIRP (Japanese Cooperative Institutional Research Program) による学生調査が2004年度より開始されている。これらの間接評価法の特徴は、共通のアンケートを多数の大学で実施、比較することにより、得られた成果は1) 大学教育改革 (カリキュラムポリシーの検証)、2) 入学志願のマーケティング (アドミッションポリシーの検証)、3) 認証評価対策、4) ベンチマーク (競合大学との比較による強みと弱みの発見)、5) 国際比較、6) 共同研究へのきっかけ として活用されている。

短期大学における同様な試みは長崎女子短期大学部で2009年に実施され、全国48短大 (中村学園大学短期大学部を含む) の協力のもとに実施された経緯がある<sup>[1-3]</sup>。本学における同様な調査は、学生委員会・生活支援課による学生生活実態調査がH22年度より実施され、その結果が公開されている<sup>[4]</sup>。本学科では、授業に重点を置いた学科独自の調査項目を含むアンケート調査 (学生満足度調査) を2013年度より実施している。そこで、今回、本調査の過去3年間分について、解析を試みたので報告する。

### 方 法

#### (1) 対象と調査方法

短期大学部食物栄養学科の1, 2年生全員 (2013年度は2年生のみ) を対象とし、後学期試験最終日にアンケート調査を実施した。対象者にはアンケート用紙を配布 (付録1) し、当日に回収を行った。過去3年分の対象者を表1に示す。

別刷請求先：長光博史，中村学園大学短期大学部食物栄養学科，〒814-0198，福岡市城南区別府5-7-1

E-mail: nagamitu@nakamura-u.ac.jp

1) 中村学園大学短期大学部食物栄養学科助教

2) 中村学園大学短期大学部食物栄養学科准教授

3) 中村学園大学短期大学部食物栄養学科教授

[1] 武藤玲路，武藤郁和，短大評価に関する追跡調査，長崎女子短期大学紀要，第36号，85-91，2012

[2] 武藤玲路，武藤郁和，短大評価に関する追跡調査 (2)，長崎女子短期大学紀要，第37号，21-28，2013

[3] 武藤玲路，武藤郁和，短大評価に関する追跡調査 (3)，長崎女子短期大学紀要，第38号，29-36，2014

[4] 中村学園大学・中村学園大学 学生委員会・生活支援課，平成27年度学生生活実態調査報告，2015

表1 アンケート実施年度と対象学年

実施年度	対象学年	回答者数	在籍者数	回答率(%)
2015	15F*(1年次)	151	160	94.4
	14F(2年次)	155	166	93.4
2014	14F(1年次)	150	157	95.5
	13F(2年次)	138	162	85.2
2013	12F(2年次)	158	166	95.2

※2015年度食物栄養学科(F)入学生を表す学内略号

## (2) 調査項目

長崎女子短大で実施されたアンケート調査をベースに、本学科独自の質問を織り交ぜた。

質問項目の概要は以下の通りである。

- I. 教育や学習支援体制についての満足度(①～⑩)
  - 1) 授業内容・方法についての満足度(①～⑩)
  - 2) 正規授業外での教育指導についての満足度(⑪～⑲)
  - 3) 学生生活のサポート体制についての満足度(⑳～⑳)
- II. 知識・技能・態度の変化について(㉑～㉒)
- III. 学習能力の向上度について(㉓～㉔)
- IV. 学生生活で得られたもの(㉕～㉖)

各質問に対する回答は、5段階自己評定尺度(5:非常に満足 4:満足 3:どちらでもない 2:不満 1:非常に不満)とした。

## (3) 他学での調査結果との比較

今回、集計解析した値はJCIRPが公表している全国的な値(「全国平均」と記載)および長崎女子短大公表の値(人文、英語、家政、食物、教育、保育の学科ごと)と比較検討した。集計結果の解析では、全体の傾向を俯瞰するため5段階評価を3段階(“5:非常に満足”と“4:満足”を“満足”, “2:不満”と“1:非常に不満”を“不満”, 中間を“どちらでもない”の3群に集約した上で解析を行った。回答は学年、年度ごとに集計した。

## 結果と考察

### I. 教育や学習支援体制についての満足度(①～⑩)

#### 1) 教育課程に関する満足度(①～⑩)

授業・学外体験・ラーニングサポートセンターを含む教育課程評価11項目のうち、最も評価の高いものは、④“実践職業で役立つ実学性重視の授業”で、全学年で80%以上の学生が満足と回答した(図1)。全国平均:56%, 長崎女子短大(人文43%, 英語61%, 家政54%, 食物

76%, 教育65%, 保育71%)<sup>[5]</sup>と比較すると、本学の値が突出している。このことは、本学科では就職を意識した学生が多いことの現れによるものと推察される。一方で不満との回答が最も多いものとして、①“授業の多様性”であり、ほぼ全ての年次において4割程度に上っており、一方、満足との回答はおよそ2割にとどまっている。本学科では卒業あるいは栄養士取得に必修科目が多いことから、選択の余地が限られている現状を反映していると考えられる。全国調査と比較すると、①“授業の多様性”について満足との回答は短大平均44%, 長崎女子短大(人文53%, 英語68%, 家政44%, 食物51%, 教育39%, 保育51%)<sup>[5]</sup>であり本学科より高めである。今後は、必修科目が多い中で、どのようにして授業の多様性に対して学生満足度を上げていくかが、本学科の課題である。

### 2) 教員の指導に関する満足度(⑫～⑳)

評価の高かったものは、⑬“就職や編入学など進路選択の励まし”(図2)でおよそ7割が満足と回答し、全国平均34%, 長崎女子短大(人文42%, 英語61%, 家政32%, 食物44%, 教育34%, 保育40%)<sup>[5]</sup>と比較し非常に高い傾向を示した。このことは、本学科における編入学対策委員、就職委員、クラス主任の連携によるきめ細かい指導が功を奏していると考えられる。

1年次と2年次の学年間で違いの見られた項目として、⑭“編入対策・指導”, ⑯“学習スキル習得への指導”, ⑰“授業以外で教員と交流する機会”, ⑱“校外実習などに関する指導”があり、いずれも2年次で満足度が高くなる傾向が見られた。これらの項目については学年毎の結果が公開されていないため、外部結果と比較することはできなかった。

次に年度ごとに推移の見られた項目として、⑲“精神的なケアや励まし”で、2年次学生の満足度に減少する傾向が伺えた。その理由として、2年次学生では就職や卒業、各種資格試験を控え、不安を抱える学生が増加するためではないかと推察される。

### 3) 学生生活のサポート体制への満足度(㉑～㉔)

学生生活を送る上で必要なハードウェアやサポート体制など、授業以外の要因についての項目で、満足度が高かったのは㉑“講義室や実験・実習室の施設設備”であり、7割以上の学生が満足と回答した(㉑は本学科独自の設問で、他学データと比較できなかった)。一方で㉒“図書館や情報設備”および㉓“授業間の待機や学習スペース”では、学年を問わず年度毎に満足度が下がる傾

[5] 安部恵美子, 小嶋米子, 「在学生調査」からみた長崎短期大学の教育, 長崎短期大学紀要, 第22号, 9-20, 2010

向が見られた。このことは、図書館や情報設備、学習スペースの不足を表していると考えられ、今後、改善が望まれる。

## II. 知識・技能・態度の変化 (31~44)

アカデミックスキル (31~37) およびジェネリックスキル (38~44) の習熟度の項目では、33 “幅広い知識や技能” で、肯定的な回答 (図4) がいずれの年度も85%を超えていた (全国平均67%, 長崎女子短 (人文63%, 英語67%, 家政64%, 食物76%, 教育74%, 保育79%)<sup>[5]</sup>。また34 “職業や進路選択への方向付け” も、8割以上で向上したとの回答を得られた (全国平均63%, 長崎女子短 (人文65%, 英語69%, 家政57%, 食物66%, 教育68%, 保育74%)<sup>[5]</sup>。一方、42 “自分で考え、行動する力” では、およそ半数程度の満足度しか得られていないが、全国平均59%, 長崎女子短 (人文63%, 英語72%, 家政56%, 食物53%, 教育63%, 保育62%)<sup>[5]</sup> の結果と比較するとほぼ同程度であった。自分で考え、行動する力が不十分な傾向は、本学科特有の現象ではなく、現代のわが国の学生全般の傾向を示しているものと考えられる。また、40 “チームで仕事をする” ではいずれの学年も年度毎の減少が見られたが、個々の状況判断・行動力の低下は、栄養士のようなチーム作業の効率に影響しかねないため、こうした状況を改善するにはアクティブラーニングの更なる強化やグループ学習などチームワーク力を強化する学習システムを充実させていく必要がある。

## III. 学習能力の向上度 (45~52)

総合的な学習能力の変化についての項目で、最も向上したとの回答が多かったのは、51 “献立作成能力” であり (図5)、過去3年間、ほぼ9割に達している (他校のデータがないため比較できなかった)。この傾向は1年次からすでに高い満足度として現れていることから、献立作成に関する教育・指導が早くから効果を発揮していることが伺える。また、学年毎の推移を比較すると、2年次の50 “調理技術能力” が年度を追うごとに満足度が高くなる傾向が見られた。対照的に、48 “プレゼンテーション能力” が向上した、との回答が減少傾向にあることが示された。

## IV. 学生生活で得られたもの (53~63)

授業以外の大学生活についての項目では、評価の高かったものは、53 “興味ある分野の勉強” から58 “自由な雰囲気” までで、総じて8割程度の学生が肯定的に評価し、学年、年度を問わず高い満足度が得られた (図6)。

対照的に、59 “ボランティア活動”、60 “サークル・クラブ活動・部活動” では評価が低い結果となった。中村

学園大学・中村学園短期大学部学生生活実態調査報告書 (H27) の“Q 8部・サークルの参加状況” で学科ごとに比較しているが、本学園4年制各学部学生の部・サークル非所属者は3~4割であるのに対し、本学科では1年次の5割、2年次の7割がサークル等に非所属である<sup>[4]</sup>。幼児教育学科、キャリア開発学科を含む本学短期大学部全体でもサークル等の非所属者が5~7割を示すことから、食物栄養学科特有の現象ではなく、短大生全般の傾向と言える。“Q 9部・サークルを辞めた理由” によると、本学科の7割が時間の余裕がないためとしており、また“Q10部・サークルに参加しない理由” でも大半が同様な理由を挙げている。短期大学部生は、短い在学期間で過密な時間割に追われ、さらに2年次には就職活動を始める事情があるため時間の余裕が取りづらく、部・サークル活動やボランティアといった活動を行えないことが原因と推察される。

## まとめ

今回は、学生満足度調査から、年度ごとの学生の大まかな傾向を探った初の試みであるが、より詳細に検討するには、本来集計した5段階評価で再分析する必要がある。他校と比較できる項目については、概して満足度が高かったと思われるが、早急には改善が望めない項目もある一方、新たな課題も発見できた。今回の調査・解析が今後の教育課程の編成やハードウェアの改善するための礎となれば幸いである。質問項目は学生の主観的評価によるアンケート調査であり、集計結果を裏付ける客観的データと組み合わせなければ信憑性は低くなる点は否めない。これらを裏付ける客観的データ、例えばGPA、図書館・ラーニングサポートセンター、就職課などの利用回数・時間などと組み合わせることで集計結果の信頼性が高くなると思われる。しかし、検証自体が不可能な項目も多数あることから、より洗練された質問項目に改良していくほか、卒業生や学生を受け入れる企業などからも調査項目について意見を聴くなど、より客観性のある満足度調査にしていきたい。

## 謝 辞

アンケート入力作業にあたり、食物栄養学科の助教、助手の方々にご協力いただきました。心から感謝申し上げます。

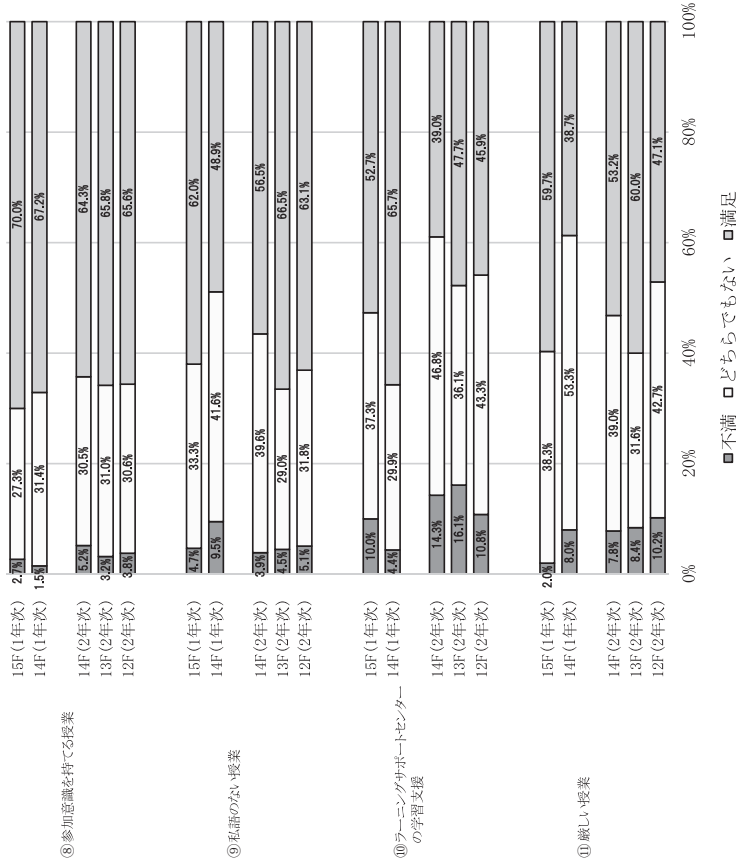
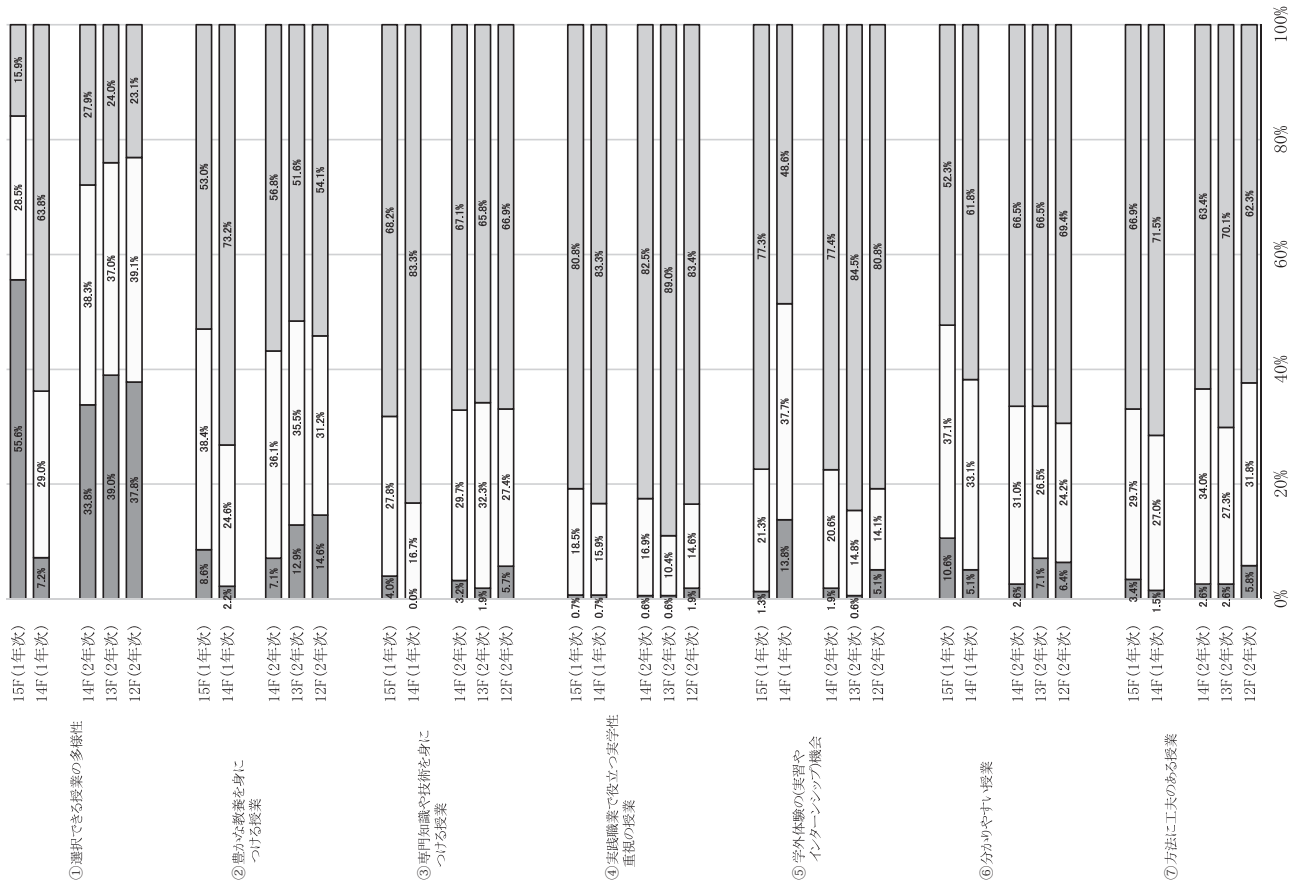


図1 授業内容・方法についての満足度 (①~⑪)





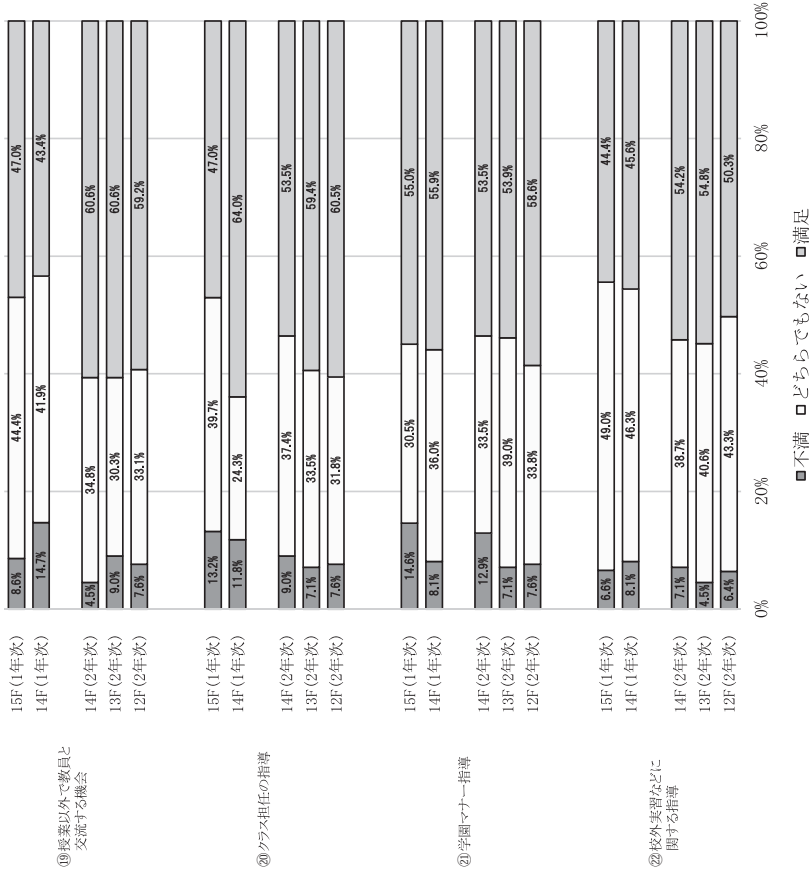
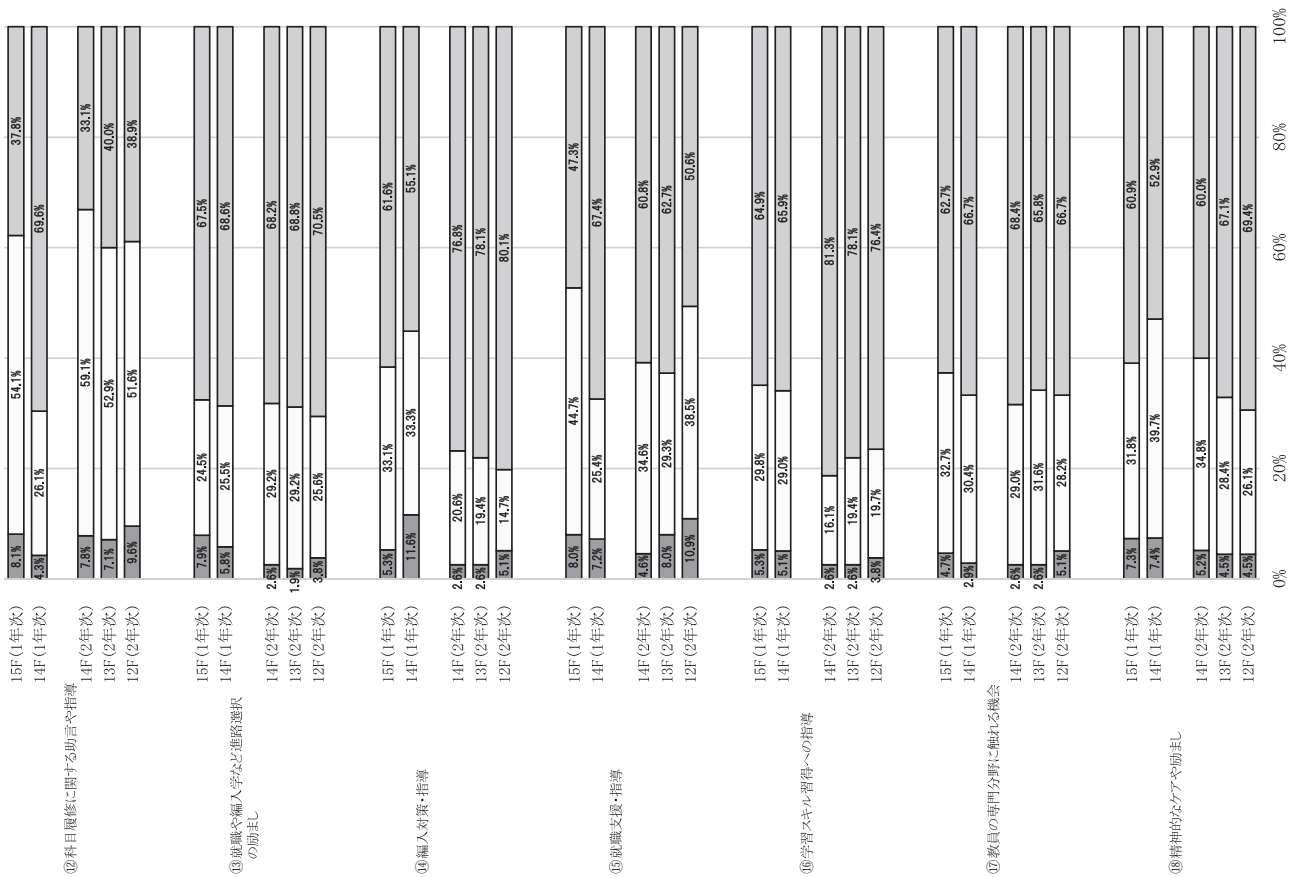


図2 教員の指導についての満足度 (⑫~⑳)



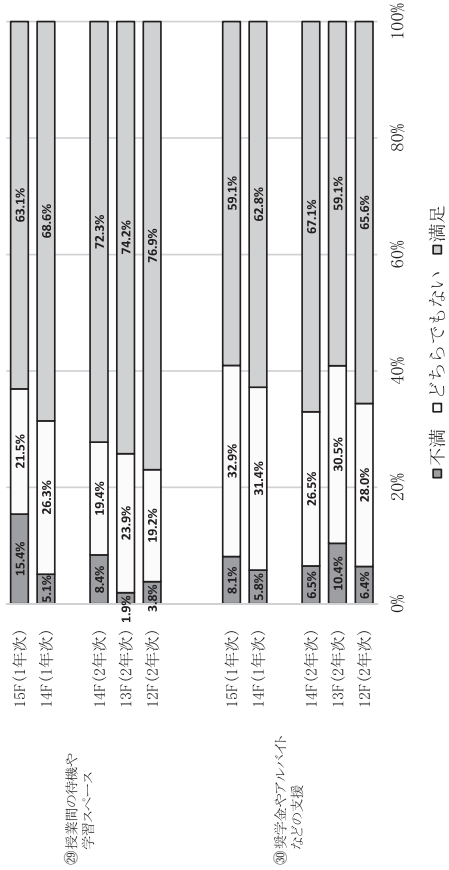
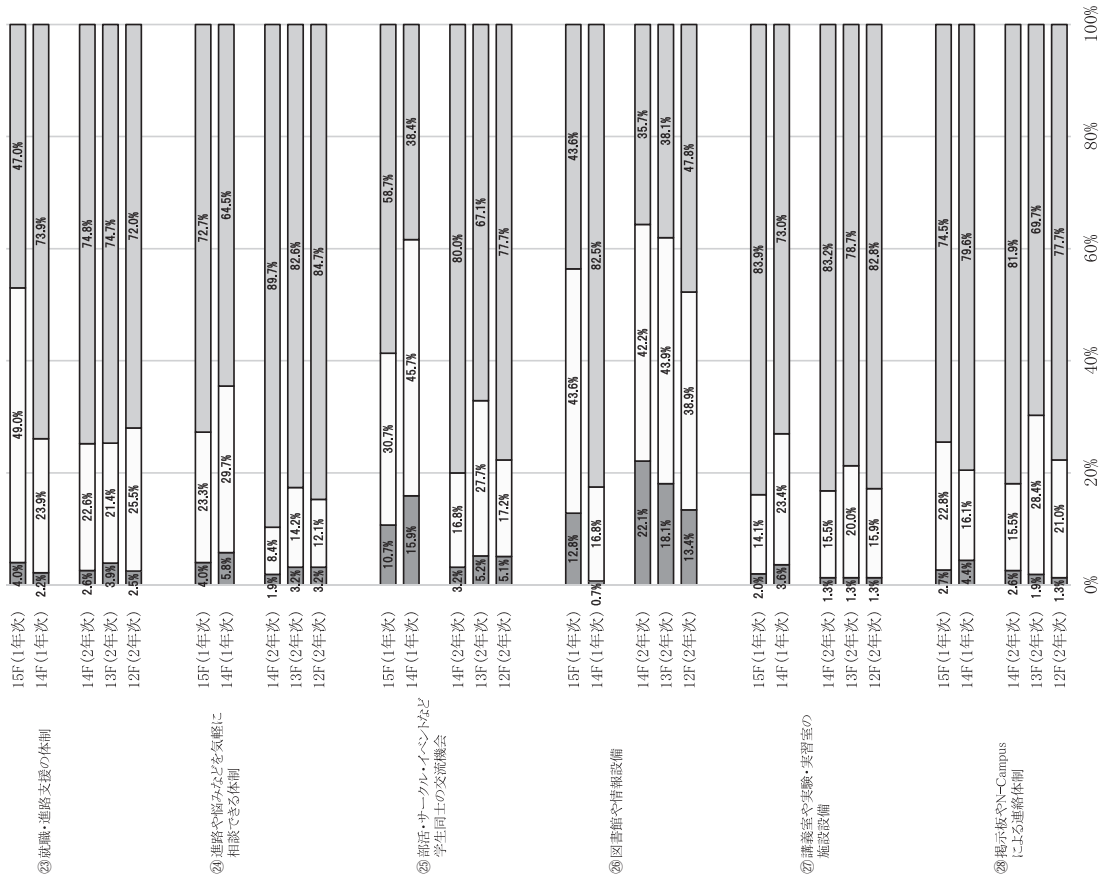


図3 学生生活のサポート体制についての満足度 (23~30)



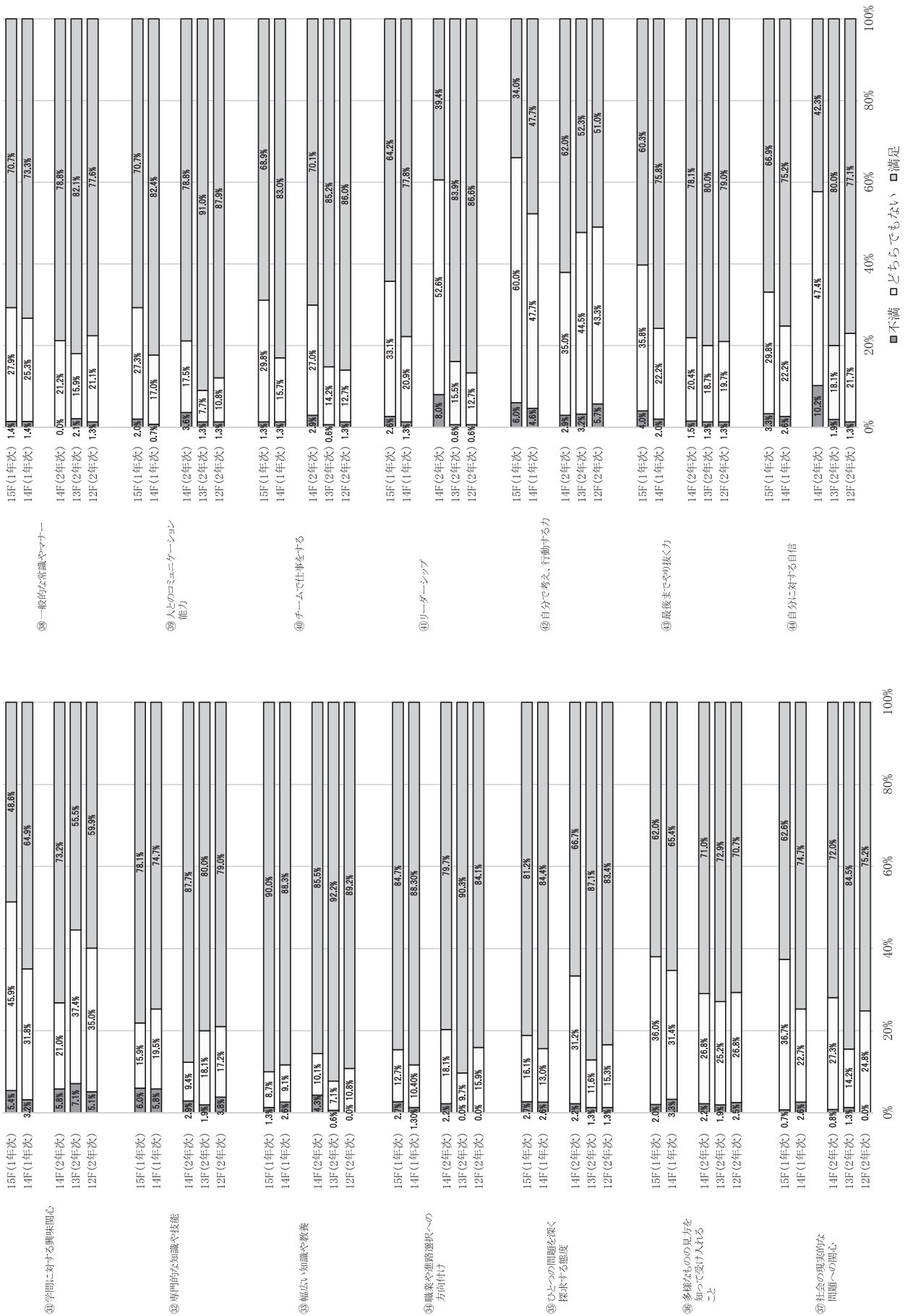


図 4 知識・技能・態度の変化 (③)~(⑫)

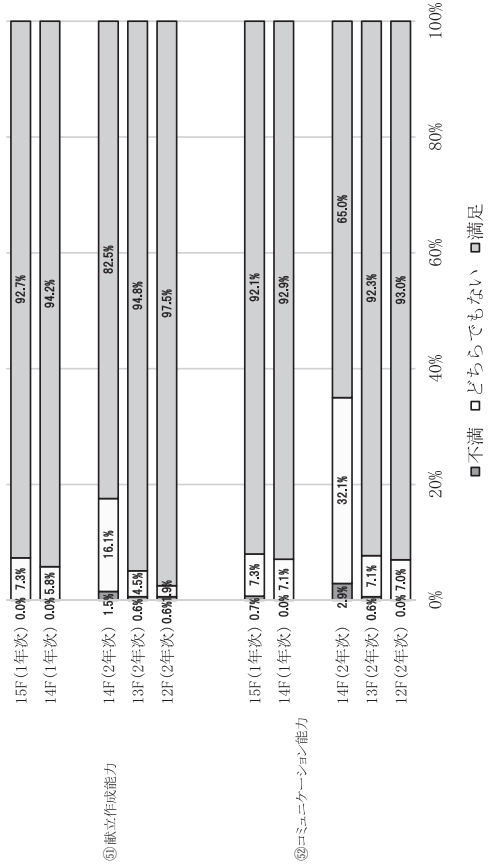
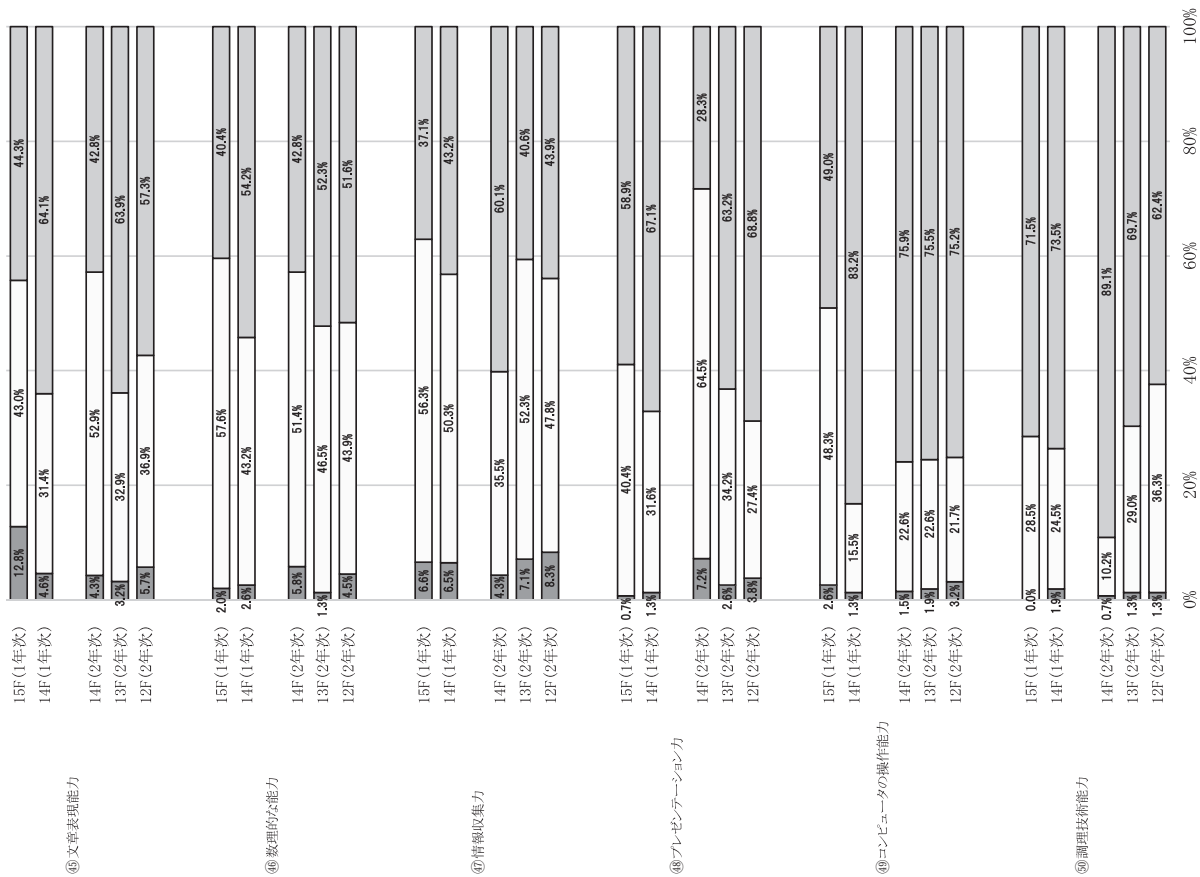


図5 学習能力の変化 (45~52)





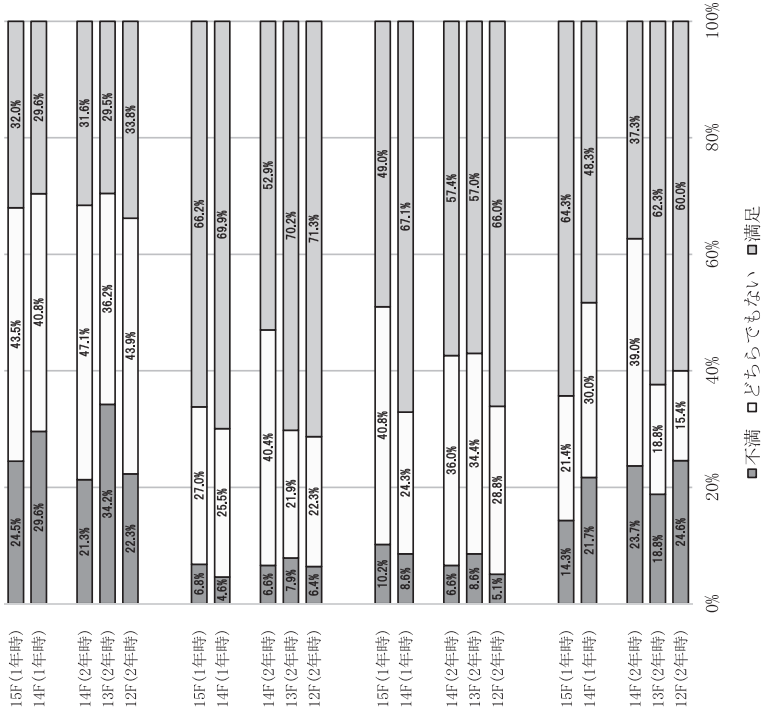
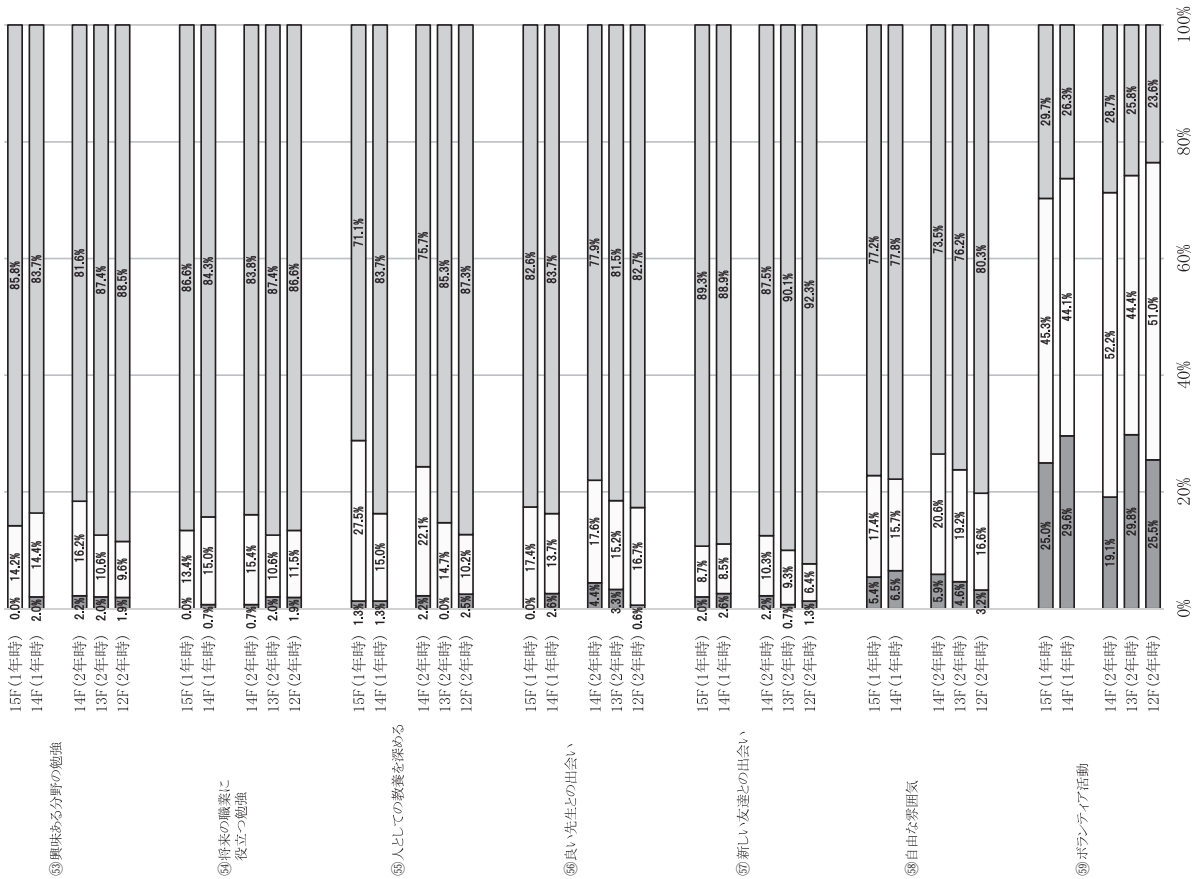


図6 学生生活で得られたもの (53~63)



付録1

食物栄養学科学生の学びと生活に関する調査

皆さんの短期大学での学びや生活は、どのようなものでしょうか。また、短期大学の教育について、どのような意見や感想をもっていますか。この調査は、短期大学教育の点検・評価から改善への取り組みを充実・強化させるために実施するものです。短期大学の教育を、さらに良くするために、学生の皆さんの協力をお願いします。書いた内容によって、あなた自身が不利な取り扱いを受けたり、個人情報として外部に公表されたりすることは決してありません。

まず、あなた自身について伺います。

学年の番号に○をつけ、年齢を記入してください。(平成26年2月1日現在)

学年→ 1 1年生 2 2年生

【1】 本学のこれまでの教育を振り返ってみて、以下の教育や学習支援にあなたはどれくらい満足していますか。5段階で評価してください。

(1) 授業内容・方法について

Table with 2 columns of questions and 5-point scales. Questions include: ①選べる授業の多様性, ②豊かな教養を身につける授業, ③専門的知識や技術を身につける授業, ④実践(職業)で役立つ実学性重視の授業, ⑤学外体験(実習やインターンシップ)の機会, ⑥わかりやすい授業, ⑦授業方法に工夫がある授業, ⑧参加意識がもてる授業, ⑨私語のない授業, ⑩基礎教育センターの学習支援, ⑪厳しい授業.

(2) 教員の指導について

Table with 2 columns of questions and 5-point scales. Questions include: ⑫科目履修に関する助言や指導, ⑬就職や編入学など進路選択の励まし, ⑭編入対策・指導, ⑮就職支援・指導, ⑯学習スキル習得への指導, ⑰教員の専門分野に触れる機会, ⑱精神的なケアや励まし, ⑲授業以外で教員と交流する機会, ⑳クラス担任の指導, ㉑学園マナー指導, ㉒校外実習等に関する指導.

(3) 学生生活のサポート体制について

Table with 2 columns of questions and 5-point scales. Questions include: ㉓就職・進路支援の体制, ㉔進路や悩みなどを気軽に相談できる体制, ㉕部活・サークル・イベントなど学生同士の交流の機会, ㉖図書館や情報設備, ㉗講義室や実験・実習室の施設設備, ㉘掲示板やN-campusによる連絡体制, ㉙授業間の待機や学習スペース, ㉚奨学金やアルバイトなどの支援.

【2】 あなたは以下の知識・技術・態度が本学入学後で変化したと思いますか。5段階で評価してください。

Table with 2 columns of questions and 5-point scales. Questions include: ㉛学問に対する興味関心, ㉜専門的な知識や技能, ㉝幅広い知識や教養, ㉞職業や進路選択への方向付け, ㉟ひとつの問題を深く探求する態度, ㊱多様なものの見方を知って受け入れること, ㊲社会の現実的な問題への関心, ㊳一般的な常識や礼儀・マナー, ㊴人とのコミュニケーション能力, ㊵チームで仕事をする, ㊶リーダーシップ, ㊷自分の考え、行動する力, ㊸最後までやり抜く力, ㊹自分に対する自信.

【3】 あなたは、在学中に以下の学習能力がどの程度、身についたと思いますか。5段階で評価してください。

Table with 2 columns of questions and 5-point scales. Questions include: ㊺文章表現の能力, ㊻数理的な能力, ㊼情報収集能力, ㊽プレゼンテーション能力, ㊾コンピューターの操作能力, ㊿調理技術能力, ㊽㉑献立作成能力, ㊽㉒コミュニケーション能力.

※この他に身についたことがあれば自由にお書きください。( )

【4】 本学でのこれまでの振り返ってみて、あなたは以下のことにどれくらい満足していますか。5段階で評価してください。

Table with 2 columns of questions and 5-point scales. Questions include: ㊽㉓興味ある分野の勉強, ㊽㉔将来の職業に役立つ勉強, ㊽㉕人としての教養を深めること, ㊽㉖良い先生との出会い, ㊽㉗新しい友達との出会い, ㊽㉘自由な雰囲気, ㊽㉙ボランティア活動, ㊽㉚サークル・クラブ・部活動等での活躍, ㊽㉛アルバイト, ㊽㉜趣味等の活動, ㊽㉝一人暮らし(一人暮らしをしている方のみ答えてください).

これまでの学生生活を振り返って、本学に対する感想(良かったことや改善してほしいこと)等について、何でも自由に書いてください。